

令和7年度第1回公立大学法人宮城大学経営審議会議事録

日 時	令和7年6月19日(木) 午後3時から午後5時15分まで
場 所	宮城大学大和キャンパス本部棟3階 大会議室
出 席 者	石井幹子委員、大山健太郎委員、小野和宏委員、佐藤勘三郎委員、里見進委員、 田中正人委員、吉岡敏明委員、佐野好昭委員(議長)、佐々木啓一委員、 蒔苗耕司委員、森本素子委員、工藤和浩委員  (オブザーバー) 佐藤洋生理事、三石誠司副学長
事 務 局	布田事務局長、佐々木次長、村上参事、後藤財務課長、 企画・入試課 南課長、小野寺主幹、萩野主任主査、山崎主事
議 事 概 要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>(佐野理事長)</p> <p>委員の皆様には大変お忙しい中、御出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>本日は令和7年度第1回目の経営審議会で、次第のとおり、報告事項2件と審議事項4件について御審議いただく。</p> <p>詳しくは、それぞれの報告事項及び審議事項で説明するが、私から概要と3月の令和6年度第2回経営審議会後の状況について御説明させていただく。</p> <p>昨年度卒業者の就職率は、3月の経営審議会時点では、全体で99.0%だったが、最終的には99.7%と、ほぼ100%に近い就職率になった。また、看護師及び保健師の国家資格試験の合格者は、看護師が97.8%、保健師が100%とこちらも高い合格率であった。</p> <p>入学者については、学群は無事定員を充足することができた。また、大学院は、前回、御報告したとおり、定員を充足することができなかったが、充足率は、80.8%となり、前年度より約10ポイント上昇した。</p> <p>令和6年度の決算は、当期総利益が1億9,700万円で、実質的に令和7年度以降使える目的積立金を1億2,600万円確保することができた。</p> <p>入学式は、4月3日にイズミティ21を会場に行い、家族の方も人数制限なく参加していただき、村井知事をはじめとする御来賓の方々とともに入学を祝っていた。石井委員にも御出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>宮城大学のセールスポイントである、全学群の1年生全員が参加する地域フィールドワークは、5月末と6月初めに行い、白石市、蔵王町、石巻市、加美町のいずれかを訪問して、地域の課題を自分の目で見てきた。</p> <p>今年度は、学校教育法に基づく認証評価の受審や県の評価委員会による業務実績</p>

及び第三期中期目標期間暫定評価の受審、3月に報告した大学改革の具体的な検討、令和9年度から始まる第4期中期計画の策定業務と、宮城大学の今後の道筋を決めていく重要な年度になる。

本日もそれぞれの立場から様々な御意見等をいただきたく、どうぞよろしく願います。

### 3 議事録署名人の選任

佐野議長から、前回会議の議事録について出席者に確認を求めた後、吉岡委員及び蒔苗委員が議事録署名人に指名された。

### 4 報告事項

#### (1) 宮城大学の現状について

資料2に基づき、佐々木委員から説明があった。

#### (2) 学校教育法に基づく認証評価の受審について

資料3に基づき、蒔苗委員から説明があった。

### 5 審議事項

#### (1) 議案1 令和6年度業務実績報告書(案)について

資料4に基づき、佐藤理事から説明があった。

#### (2) 議案2 第3期中期目標期間暫定評価報告書(案)について

資料5に基づき、佐藤理事から説明があった。

#### (3) 議案3 令和6年度決算(案)について

資料6に基づき、工藤委員から説明があった。

#### (4) 議案4 学長選考会議委員の選出について

資料7に基づき、布田事務局長から説明があった。

・報告事項及び審議事項の説明が終了した後、議案4の学長選考会議委員の選出について審議し、事務局案が承認され、大山委員、小野委員及び里見委員の3名が選出された。

・その後、報告事項及び議案1から3まで一括して質疑及び意見交換等を行い、その主な内容は以下のとおりであった。

(大山委員)

決算報告について御説明いただいたが、資料が決算概要、決算報告書、財務諸表、それ以外にもうひとつ資料があり、分かりにくい。数字は正しいと思うが、全体の理解が難しいので、次回までに資料をもっとシンプルに整理していただきたい。

(工藤委員)

資料は従来どおりであるが、公立大学の場合は、特にどういう成果を上げた事業

執行だったのかというところも重要であるので、それに対する補足を説明させていただいた。次回以降は、もう少し要点を絞り、分かりやすい説明を心掛けたい。

(里見委員)

赤字か黒字か分かりにくい点がある。国立大学の場合、人件費などは、大学内で処理する必要があるが、宮城大学は、県からの予算支援があるため、大きな赤字が出ないような仕組みになっている。そうした意味では、非常に恵まれた会計になっていると感じた。多くの大学が厳しい状況にある中で、経常費用と経常収益の差額として約1億9,700万円の黒字を確保できたことは、非常に素晴らしいことだと思う。

(工藤委員)

人件費の賃上げに伴う給与改定については、県も同じように対応してくれるとのことで、それに合わせて追加の交付金をいただけるのは大変ありがたい。

(佐野議長)

正職員の人件費については、県から措置いただいているが、有期職員の人件費については、渡し切りの交付金でやりくりすることになっているので、決して楽な経営ということではない。

(里見委員)

少子化の影響により、全国の大学で入試の定員割れが顕在化している中、本学では、志願者数が増加しているとのことだが、実際に受験する動機となった本学の取り組みは何か。

(蒔苗委員)

入学者アンケートを通じて、受験に至った情報源や動機について把握を進めている状況である。高大連携の取り組みも進めており、その効果もあったのではないかと推察している。

(佐野議長)

出願者数が増えてきているということではなくて、維持をしているということであり、全国の国公立大学や東北の他大学が低迷している状況の中で、本学は健闘している方だという認識である。

(里見委員)

現状では卒業生の県内就職率が40%強となっている。宮城大学の卒業生が県内に定着することは、地域にとって非常に望まれていると思うがどうか。

(佐々木委員)

現在、卒業生の約半数が県内に就職しており、この点については、県への説明も一定程度できていると考えている。

他の公立大学では、県内就職率が20%から30%程度であることが多い。特に看護学群が約70%の卒業生が県内に定着している。一方で、食産業学群では、積極的に就職先を探す中で、どうしても首都圏に流れる傾向があるのが現状である。

県内定着率の向上を目指して、公務員説明会や地元企業の説明会を開催するなど一生懸命取り組んでいる。

(佐野議長)

県内就職率について、看護学群の73.6%を細かく見ると、卒業生のうち県内出身者が全体の65%を占め、そのうち84.3%が県内に定着している。一方、県外出身者は、34.5%で、そのうち53%が県内に定着している。

食産業学群は、卒業生のうち県内出身者が53%程度であるが、そのうち県外に流出する割合が約45%である。県外出身者は約47%で、そのうち県内定着者はわずか11.8%となっている。

(大山委員)

留学生の受け入れ状況について伺う。新型コロナウイルスの影響により、一時は受け入れゼロになったが、現在、県を挙げてインドネシアからの人材確保に取り組んでいる状況で東北大学への留学生が非常に多い中、この格差を少しでも埋められるよう、さらなる努力をお願いしたい。

(佐々木委員)

基本的には、私も委員と同じ考えである。ただ、大学としてそこを明確に目指すかどうかについては、現在、理事長との間で協議を重ねている段階である。これまでに海外連携校との交流は、学生間の交流にとどまっていたので、継続的な連携が難しかったのではないかと考えている。今後は、教員間での共同研究や共同事業など、より実質的な連携を進めていく必要があると認識している。現在、新たにグアム大学と台湾の大学と連携協定を締結し、発展的な交流を図っていく予定である。

(吉岡委員)

非常に多くの資料を御説明いただき、しっかり大学としての経営をされていると理解した。大学である以上、教育に重点を置いた経営が求められると思うが、前回の会議で新たに学群を横断するような教育プログラムを進めるという話を伺ったが、予算の配分状況はどうなっているのか。

(佐々木委員)

基本的には、大幅な変更が難しい予算編成になっている。ただし、ここ数年は、

かなりの額を増額していただいております、各学群・研究科が活用できる予算についても、今年度は比較的多くの予算が配分されている。教育分野への重点的な予算配分は今後も継続できると考えている。学群横断に関しては、特別枠として予算をプールしており、柔軟に対応できる形となっている。

(吉岡委員)

県内に定着して活躍してもらうためには、企業の誘致が必要であり、そのためには優秀な人材を育成することが重要である。

卒業生を本学の象徴として育成していくような、戦略的な取り組みも必要ではないかと思うがどうか。

(佐々木委員)

本学の卒業生1期生は、現在、40代半ばに差し掛かる世代となっており、各企業において一定のポジションに就き始めている方も多く、そうした点は高く評価されている。

また、個人で起業している卒業生も多数いて、活躍の幅が広がっている。昨年からは、初めてビジネスコンテストを開催し、起業経験のある卒業生を招いて、学生に対して、自身の起業の経緯や事業状況を語っていただく機会を設けている。

(吉岡委員)

AI技術の活用が急速に進む中で、学生がその使い方を正しく理解し、適切に活用できるようにするための教育プログラムはどうなっているのか。また、事務方の導入がどれくらい進んでいるのか。

(蒔苗委員)

数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定を受けており、基礎的な内容については、教育を行う体制を整えている。学群によってはAIを授業に取り入れ、活用方法や課題の明確化に取り組んでいる状況で、今後は、全学的に発展させていく必要があると考えているところ。実際、学生の中にはAIに大きく依存してレポートを作成するケースも見受けられる。AIの適切な利用に関する指針を公大協で整理しているので、今後はそれを共有しながら、教育現場での対応を考えていきたい。

(佐野議長)

事務局のAI活用については、組織的にはまだ取り組んでいないというのが実態である。

(田中委員)

丁寧にご説明いただき、決算についても順調との印象を受けた。

また、令和6年度の自己評価についても、各項目に真摯に取り組んでいることが伝わってきた。

今後は、次期中期計画の策定が重要になるが、その際には社会動向や他大学の取り組みなども参考にしながら、着実に進めていただきたい。

また、宮城大学が設立から20年を迎え、卒業生が社会でどのように活躍しているかが、今後の大学の大きな資産になる。特に、Uターン就職は重要なテーマであり、私の会社でも事業構想学群のUターンの卒業生を採用したが、東京での経験を活かし、社内でも高く評価されている。こうした卒業生が県内企業で活躍できるよう、大学としても支援やネットワークづくりなど整えていただきたい。

さらに、県立広島大学との連携も非常に意義深い取り組みである。自大学のみでの成長に限界がある中で、同じような立場の県立大学同士が連携し、互いに刺激を受けながら発展していくことは、今後の大学運営にとって大きな価値があると思う。

(佐々木委員)

Uターンの卒業生がお世話になっており、感謝申し上げます。

現在、卒業生の組織化に向けた取り組みを進めており、各学群で小規模なOB組織が形成されつつある。昨年度は、食産業学群の20周年で、OB会の活動も活発になっている。

また、県立広島大学との連携については、両県の知事による定期的な対談を背景に、公立大学同士の協力が進んでいる。現在、SDGs関連の講義において、本学の教員が県立広島大学で登壇する予定であり、それに合わせて学生の交流も行われる。さらに、本学で開催予定のビジコンには、県立広島大学の学長及び学生の参加も予定されており、実質的な交流が活発化している。

(佐藤委員)

丁寧な御説明いただき、財務状況については、総じて順調であると理解した。

就職に関しては、仙台の企業は現場部門が多く、管理部門が少ないため、管理部門を求めて都市部へ流出する傾向があるとの指摘もあり、Uターン人材を受けとめる体制づくりが重要であると感じた。OB会の活動が充実してきているとの話もあったので、今後の展開に期待している。

また、公立大学の学生には、地元志向で控えめな傾向が見られるため、ビジネスコンテストのような競争や挑戦の機会は非常に有効だと思う。地域経済界とも連携し、ピッチイベントなどを通じて、より尖った人材の育成を目指していただきたい。

生成AIについても、単なる活用にとどまらず、ハルシネーションなどのリスクを理解し、適切に検証・活用できる教育が必要である。教職員も含めたAIリテラシーの向上に向けた取り組みを期待したい。

教育面では文理融合の視点が重要であると思うので、バランスの取れた教育体制の構築を進めていただきたい。

(佐々木委員)

本学の学生は、素直で大人しい性格の方が多く在籍している。昨年度のビジネスコンテスト開催時には、参加者が集まるか心配もあったが、結果として30件以上の応募があり、質の高い発表が多数見られた。学生同士の良い刺激となり、今年度はさらに多くの応募を期待しているところ。

AI教育については、学生との対話を通じて、リスクや注意点を理解した上で活用している様子が伺える。本学にはAIの専門教員も在籍しており、他大学と比較しても、学生のAIリテラシーは高い水準にあると感じている。

文理融合については、事業構想学群や食産業学群において、理系・文系の要素を組み合わせた教育が既に展開されている。今後は、令和9年度から始まる第4期中期計画に向けて、学類の枠を超えた横断的な教育体制を構築し、より明確な文理融合を推進していく予定である。

(蒔苗委員)

AIに関しては、様々な授業の中で取り組みを進めている。最近では、元NTTドコモでAI分野に携わっていた専門家が教員として着任しており、専門的な教育も徐々に浸透してきていると感じている。ただ、全学的な展開については、まだ十分に進んでいない部分もあるので、今後は学内全体で効果的に展開していきたいと考えている。

(大山委員)

就職に関する話題が出たので、補足させていただくと、当社は東北地域で最も多く学生を採用している企業の一つであり、毎年宮城大学からも採用を行っている。

最近の傾向として、学生の質は年々改善されていると感じているが、3年前の学生は、コロナ禍によるキャンパス内での交流不足の影響が大きく、社会に出た際のコミュニケーション能力に課題が見られた。リモート中心の学習環境が、対人関係の形成に影響を与えたと考えている。

社会で求められる基本的な力はコミュニケーション能力であり、営業職などでは特に重要である。他大学と比較すると、宮城大学の学生は、学内活動、特にクラブ活動の機会が少ない傾向がある。今後は、学内活動の充実を図ることで、卒業後の社会適応能力を高めることができるのではないかと期待している。

(森本委員)

コロナ禍においては、学生が活動できない状況が続き、非常に気の毒な時期だったと思う。コロナ収束後は活動が活発になり、今年度に入ってから、新しいサークルも次々立ち上がっている。授業でもグループワークなどの取り組みが以前とは大きく変化しており、学生の意欲が高まっていることを実感している。今後の卒業生に大いに期待していただきたい。

	<p>(蒔苗委員)</p> <p>大和キャンパスにおける学生活動についても、コロナ禍の影響で一時的に大きく停滞していたが、現在は学生サービスセンターを中心に、活動の再構築に向けた取り組みを進めている。今後、学生活動が活性化することを期待している。</p> <p>○ 議案1から3まで異議なく承認された。</p> <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石井委員が令和7年6月末をもって退任するため、挨拶があった。</li> <li>・工藤委員が令和7年6月末をもって退任するため、挨拶があった。</li> <li>・次回の令和7年度第2回経営審議会は、例年どおり3月に開催することとし、後日、日程調整をすることとした。</li> </ul> <p>7 閉会</p>
--	---

この議事録は、令和7年度第1回公立大学法人宮城大学経営審議会の議事録である。

公立大学法人宮城大学

経営審議会議長

佐野好昭



議事録署名委員

蒔苗耕司



議事録署名委員

吉岡敏明

